【架け橋期のカリキュラム】の見方

①【架け橋期に期待する子ども像】

・令和５年度の就学前教育振興会議において、市内の園・小学校・保護者・地域の代表で話し合いを重ね、決定しました。

②【自立心】…（期待する子ども像を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に具体化した視点）

・園と小学校で子ども達の姿を捉え、語り合う際の共通の視点です。
・自立心だけを育むということではなく、保育・教育を通して１０の姿が一体的に育まれます。また、到達目標ではなく、こんな風に育ったらいいなという方向性を示すものです。
・期待する子ども像の実現に向け、５歳児から１年生終了に向かっていく子どもの姿を、自立心を視点に示しています。

③【大切にしたいこと】

〇先生の関わり
・先生の関わり方で大切にしたいことを例示しています。
・具体的な先生のことば（声がけ例）について示しています。

〇環境づくり
・園や小学校の環境づくりについて例示しています。
・子供達が主体的に遊んだり学んだりできるようにするための遊びの環境・学びの環境の工夫です。

④【予想される園での活動（例）】

・園での主な活動例を示しています。（実際の活動は、各園で異なる。）

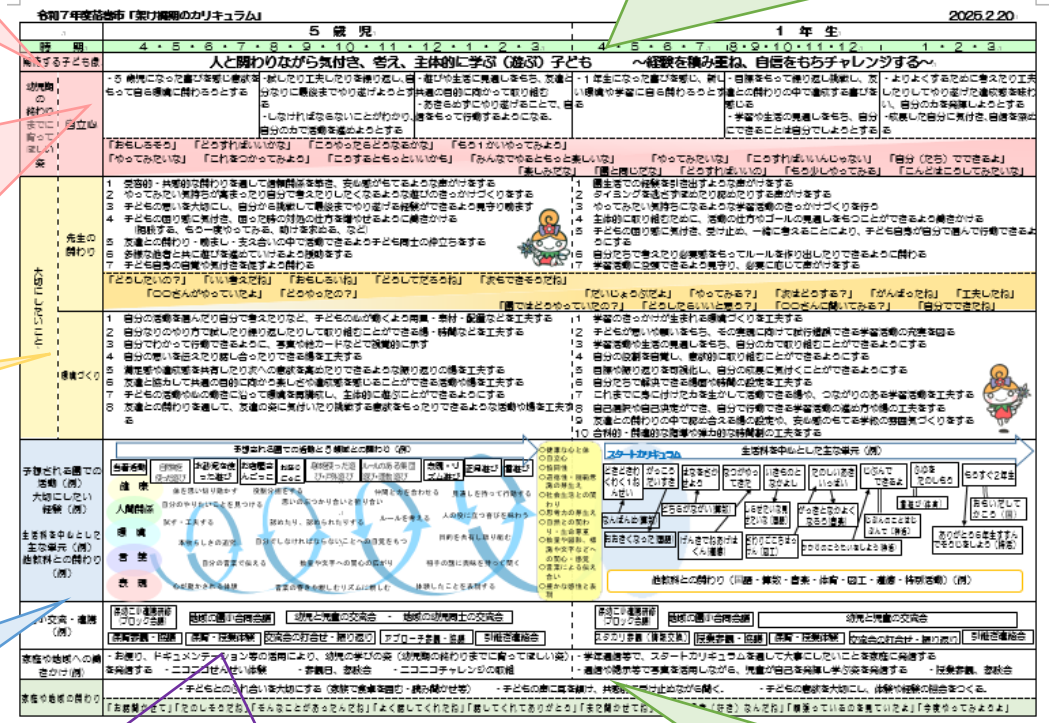
【大切にしたい経験（例）】
・各園での活動を通して子ども達が経験したい内容を示しています。（保育におけるねらい・指導内容を５つの領域で示しています）

【生活科を中心とした主な単元】
・生活科は、幼児期の教育と小学校教育とを円滑に接続する機能をもつことから、生活科を中心として各教科へと学びをつなげていくことができるよう、生活科の主な単元を示しています。

【他教科等との関わり（例）】
・生活科と関連させることにより、学習活動がより充実したり児童の意識の流れに沿ったりすることが考えられる他教科等の単元名を例示しています。

【時期】

・５歳児は区切りなし（園によって、３期制・４期制など様々）
・１年生は３学期の区切りを設けています。



⑤【園小交流・連携】

・園児と小学生の交流や、地域の園同士の交流、先生方同士の連携について例示しています。具体的には、各小学校区の計画により実施しています。

⑥【家庭や地域への働きかけ】

・期待する子ども像の実現に向け、家庭や地域に発信したり連携したりする具体例を示しています。

⑦【家庭や地域の関わり】

・家庭や地域では、子供達への関わり方でどんな工夫ができるか、どんな声がけができるかという例を示しています。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

・５領域に示されているねらい・内容に基づく保育を通して、資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿です。
・到達目標ではなく、方向目標です。